

■ ご挨拶 ■

第80回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって



第80回日本医学放射線学会総会

会長 富山 憲幸

大阪大学大学院医学系研究科 放射線統合医学講座 放射線医学 教授

第80回日本医学放射線学会（JRS）総会を開催するにあたって、一言ご挨拶申し上げます。

本総会は、2021年4月15日（木）～18日（日）の4日間、パシフィコ横浜にて、第77回日本放射線技術学会（JSRT）総会学術大会、第121回日本医学物理学会（JSMP）学術大会および国際医用画像総合展（ITEM2021）との合同で、JRC（Japan Radiology Congress）2021として開催いたします。

2019年12月に中国武漢市から発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に広がり、2020年3月11日には世界保健機関（WHO）がパンデミックを宣言しました。COVID-19によって日本はもとより世界中で経済や日常生活に多大な影響が及んでいます。当初ほとんどの学会・研究会が延期や中止となるなど、研究・教育・診療活動においても大きな支障をきたしています。一旦落ち着いた感染者数が緊急事態宣言解除後再び増加し、第2波、第3波が到来してきております。一日も早い事態の収拾を願わずにはられません。このような状況の中、コロナ時代に対応した学会開催が求められています。JRC2020はWeb開催となりましたが、青木会長をはじめ関係者の方々のご尽力で新しい形の素晴らしい総会となりました。JRC 2021に関してはJRC 4団体の関係者で何回も検討を重ね、パシフィコ横浜での開催を決定しました。On-Siteの重要性和On-lineの利便性を取り入れ、ハイブリッド形式での開催といたします。教育講演などのレクチャはOn-lineでも十分可能ですが、研究発表での深い議論はやはりOn-Siteで行うのが望ましいと思います。On-lineはセッションの一部ライブ配信と、教育講演を中心としたプログラムをゴールデンウィークからオンデマンド配信いたします。最近ではハイブリッド形式で開催された研究会や学会はありますが、JRCは4団体の参加者が2万人を越えるとても大きい学会です。これだけの規模の学会をハイブリッド形式で開催するのは新しい試みであり、今後のJRCの開催形態を占う試金石となる学会とも言えます。最近では私を含め多くの方が、Zoomなどを使ったオンライン会議やレクチャのオンライン視聴に慣れてきていると思います。私の教室でもすべての会議はオンラインとなりました。以前からオンラインの技術はありましたが、通信環境が整いだし、意識の上でも浸透してきて、利用が促進されました。空間的制約から解放され、容易に情報共有できることは大きなメリットがあります。今後の学会はハイブリッド形式がスタンダードになっていくのではと考えております。

今回の日本医学放射線学会総会は第80回という一つの区切りとなります。このことを鑑み、開催テーマを“先人たちの功績とその先へ”（Milestones and Beyond）といたしました。レントゲン博士がX線を発見されてから今年で126年になります。この間に様々な新たな発見や知見があり、今日の放射線医学があります。私たちが今前へ進み続けることができるのは、先人たちの努力や功績のお陰であり、この功績をより発展させて後の世代に引き継ぐ責務があることを再認識したいとこのテーマを決めました。

合同開会式では、JRS、JSRTおよびJSMPの3学会の会長・大会長ならびにJIRA会長から各団体の今後の将来構想や方向性に関する講演を予定しています。表彰式ではブリティッシュコロンビア大学のNestor L. Müller教授、ジェノヴァ大学のLorenzo E. Derchi教授、ソウル国立大学のJung-Gi Im教授の3名の先生と、本田憲業先生、内藤博昭先生の2名の国内の先生に名誉会員の称号が授与されます。

JRSの特別講演1は第5のがん治療法といわれる光免疫療法の開発者である米国立衛生研究所（NIH）の小林久隆教授に、光免疫療法最前線「Near Infrared Photoimmunotherapy for Cancers」の講演をしていただきます。また、特別講演2として、アンドロイド研究の第一人者である大阪大学大学院 基礎工学研究科 石黒浩教授にご講演をお願いしています。3学会の合同特別講演として、小林久隆教授を研究当初から支援されてきた楽天株式会社の三木谷浩史会長兼社長にご講演をお願いしています。三木谷浩史社長は2020年9月25日に日本で薬事承認された世界初の頭頸部がんの光免疫療法用薬を開発した楽天メディカルの代表取締役社長も兼任されておられます。

JRSのシンポジウムとして、シンポジウム1「肺癌スクリーニング Update 2021」、シンポジウム2「分子標的薬時代におけるTACEの位置づけ：各施設における現況」、シンポジウム3「神経放射線医学の最近の潮流と未来への展望」、シンポジウム4「胸腺上皮性腫瘍の画像診断」、シンポジウム5「泌尿器科腫瘍に対する放射線治療の新たな試み」、シンポジウム6「セラノスティクス（PET診断から核医学治療まで）」、シンポジウム7「間質性肺炎の現状と将来展望」、シンポジウム8「肝Gd-EOB-DTPA造影MRI：その深淵にせまる」、シンポジウム9「AIが拡張する放射線医学」と9つの魅力的なシンポジウムを予定しております。3学会の合同シンポジウムとしては、最重要課題である合同シンポジウム1「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の全貌に迫る」を取り上げます。合同シンポジウム2は、増え続ける乳がん診療に必須の「マンモグラフィシステムと画像の進化」を企画しました。合同シンポジウム3は「日本発の放射線医療技術 -過去と未来-」と題して、これまで日本から発信された多くの放射線医療技術を振り返り、今後を考察したいと思います。国際交流セッションでは新型コロナウイルスに対する各国の取り組みをご講演いただく「新型コロナ時代の放射線医学：診療、教育、研究および学会活動における取り組み」を企画しました。特別企画としまして、JRSダイバーシティ推進・働き方改革委員会およびJCR共催企画の「働き方改革特別講演」とJCRアワー 2021：「Shared-decision making in radiology 推進のために」の講演がごぞいます。

今年は東日本大震災からちょうど10年を迎える節目の年でもあります。震災を振り返り、その経験をどう生かせるか、また、住民の方たちとの関係作りを今後どう進めていくかなどを考える合同市民公開講座「震災から10年：福島原発事故からの軌跡とこれから」を企画しました。この他、多くの教育講演、Invited lecture、研修医セミナーや例年好評のAIハンズオンセミナーも開催いたします。

JRC2021と同日程で、第18回アジアオセアニア放射線学会（18th Asian Oceanian Congress of Radiology：AOCR）をパシフィコ横浜ノースにて併催いたします。パシフィコ横浜ノースはパシフィコ横浜に隣接して建設された新しい建物です。是非皆様に足を運んでいただければと思います。今年はAOCRの開催母体でありますAsian Oceanian Society of Radiology（AOSR）の設立50周年にあたります。このような記念すべき年に両学術総会の会長を拝命でき、とても光栄です。

日本医学放射線学会総会は、放射線医学全領域を網羅する規模の大きい学術集会です。今回の学会ではハイブリッド形式とすることで、参加者の参加方法のチョイスが増え、三密を避けながら学会を楽しんでいただける絶好の機会です。学会に参加されることで、日常診療に忙しい先生方も最新の知識を吸収できると同時に、未来の放射線医学について考える契機になると思います。コロナ対策は万全を期する所存です。多くの方々のご参加を心からお待ち申し上げます。